

【要旨】

題名：抗菌薬に関する患者の認識の適正化に対する薬局薬剤師による対面指導の有効性

松井 洸¹、阿部 真也¹、山口 浩¹、吉町 昌子¹、野村 和彦¹
(株式会社ツルハホールディングス¹)

【目的】

現在、薬剤師の関与が抗菌薬に対する患者の認識の適正化に有効であるかを明らかにした報告はない。そこで、薬局薬剤師が来局患者に対して、抗菌薬適正使用の資材配布に加えて対面指導を行う事が、抗菌薬に対する来局患者の認識の適正化に有効かを検討した。

【方法】

株式会社ツルハ西関東地区の9店舗を、薬剤師による資材を用いた対面指導群(対面指導群)と、資材配布のみの群(資材配布群)に分け、抗菌薬に対する来局患者の認識の変化を2群間で比較した。2018年9月～10月に研究への参加同意が得られた患者に基礎特性および抗菌薬に関する基本的な知識を問う初回の質問票への記載を依頼した。その後、対面指導または資材配布を実施した。そのうち、2018年9月以降2019年5月までに再度来局した患者に対し、初回と同一の質問票の記載を依頼した。解析対象は再度来局時の2回目の質問票の記載まで完了し、かつ記載漏れがない患者とした。

【結果】

最後までプロトコルを遂行出来た患者は対面指導群の228名、資材配布群の242名であった。調査の結果、抗菌薬に対する認識は全ての項目で、薬剤師が対面指導を実施した対面指導群の方が資材配布群と比較して有意に適正化していた($p < 0.05$)。特に以下の項目で、正しく理解している患者の割合の変化が有意に大きかった(Q4 風邪に対する抗菌薬の効果 +16.9%、Q14 薬剤耐性の問題の理解+18.8%)。

【考察】

薬剤師による対面指導が有効であったことは、世界的に対策が急務となっている抗菌薬の適正使用における薬剤師の役割を明らかにすることができたと言える。しかし、本研究では「抗菌薬に対する認識の適正化」は観察出来たが、「抗菌薬に対する適正使用行動の増加」までは観察出来ていない。「医師に風邪と診断され抗菌薬が処方された場合、医師にその目的を確認する」等の項目を新設し、適正使用行動に関しても調査する必要があると考えられる。

(第15回日本薬局学会学術総会 2021年11月 WEB開催にて発表)